



プレカット連携編

プレカット連携の基本操作とプレカット連携を行うときに気をつけていただきたいことや、よくあるお問い合わせを紹介します。

1. プレカット連携の基本操作	2
1-1. CEDXM（シーデクセマ）ファイルとは	2
1-2. プレカット工場に渡すファイルを作成する	3
1-3. プレカットの構造図データを読み込む	4
2. プレカット連携の注意点	6
2-1. プレカット工場に渡すファイルの作成	6
基本情報の確認	6
平面図（平面詳細図）の入力	6
屋根伏図／天井伏図／立面図の入力	8
床小屋伏図／木造構造計算の入力	9
CEDXM ファイルの作成と連携	10
2-2. プレカットの構造図データの読み込み	12
床小屋伏図への読み込み	12
整合性チェック	13
基礎伏図の作成	13
新規作成データを一棟読み込み	14
2-3. プレカット工場でのファイル取り込み	14

1

プレカット連携の基本操作

CEDXM（シーデクセマ）ファイルを利用してプレカット工場と連携する操作をご紹介します。
ZERO には、プレカット CAD と双方向でデータ連携する機能がありますので、CEDXM 対応のプレカット CAD を使用している工場とのやり取りには、ぜひこの機能をお試しください。

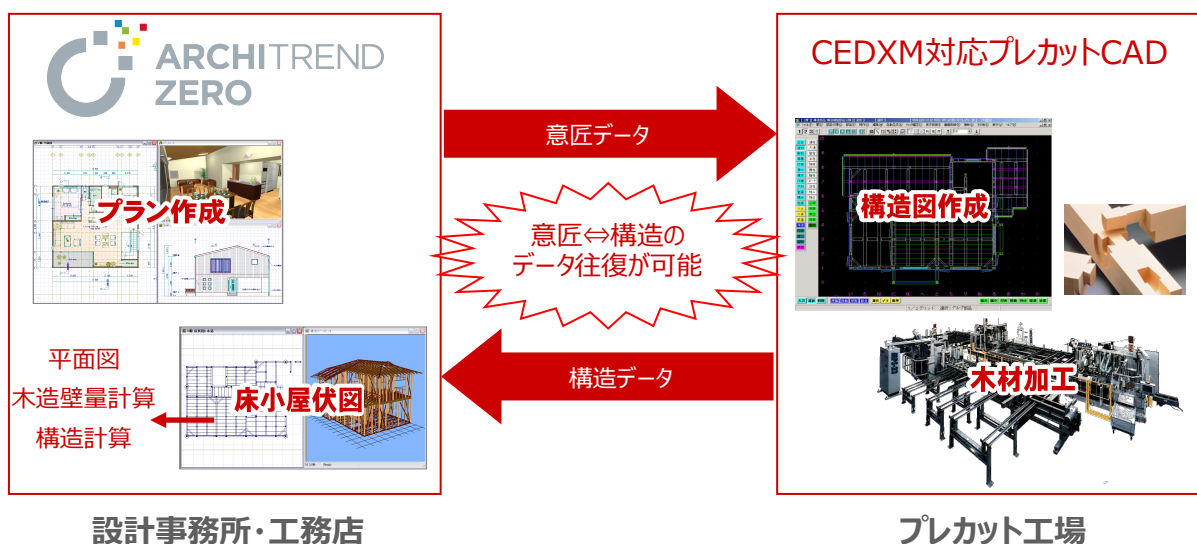
1-1 CEDXM（シーデクセマ）ファイルとは

「木造住宅 CAD/CAM データ連携標準化評議会（NPO 法人シーデクセマ評議会）」によって制定された、意匠 CAD とプレカット CAD 間を連携するデータフォーマットで、XML（Extensible Markup Language）ファイルで作成されています。CAD システム毎に異なるデータ形式で連携している現状に対し、利用者の負担を軽減することを目的に、各メーカーが共通の仕様となるよう策定されたものです。

※ CEDXM の詳しい情報はこちらで確認できます。

NPO 法人シーデクセマ評議会のホームページ : <http://www.cedxm.com/>

ZERO では、プレカット CAD と双方向で連携が可能で、以下のような運用が可能です。



CEDXM 連携対応のプレカット CAD

2016年3月現在、下記メーカーのプレカット CAD で CEDXM ファイルの入出力が可能です。

※ NPO 法人シーデクセマ評議会のホームページによるものです。

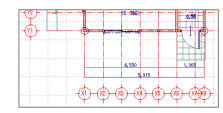


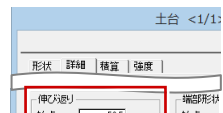
- ・ 宮川工機 株式会社 MP-CAD8
- ・ 株式会社 トーアエンジニアリング トーア CAD プレカットシステム
- ・ 原田木材 株式会社 ランバックス CAD
- ・ 沖機械 株式会社 HSB-CAD

1-2 プレカット工場に渡すファイルを作成する

プレカット工場のプレカット CAD に読み込むファイルを出しましょう。指定した物件の高さ情報、平面図、屋根伏図、床小屋伏図のデータがプレカット CAD へ連動します。

プレカット連携ファイル作成前に、必ず次のチェックポイントを確認してください。

【連携におけるチェックポイント】

□	平面図に通り芯が入力されていますか？ プレカット CAD 側の基準位置やグリッド情報に使用されます。通り芯データがない場合、ZERO → プレカット CAD → ZERO と連携した際に座標がずれるケースが発生します。	
□	モジュール寸法は正しいですか？ [物件初期設定 (通り芯)] ダイアログの【一括入力】の【間隔】には、通り芯の間隔を設定します。 プレカット連携ファイル作成時は、[物件初期設定 (初期グリッド・用紙)] ダイアログの【グリッド設定】の【間隔 X】より基本モジュールが連動します。 この2つの設定を確認します。	 
□	木造床小屋伏図において、部材に対して芯々考慮がされていますか？ プレカット CAD では各部材の「伸び返り」の情報が必要になるため、各部材が芯基準で入力されて、「伸び返り」の値が設定されていることを確認します。	
□	図面データも送りますよ 確認のためにも図面も添付しましょう。最低、平面図、屋根伏図、立面図が必要です。	

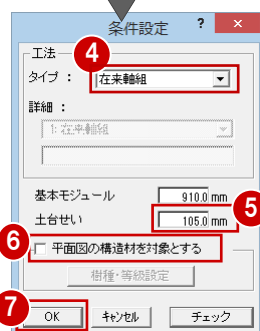
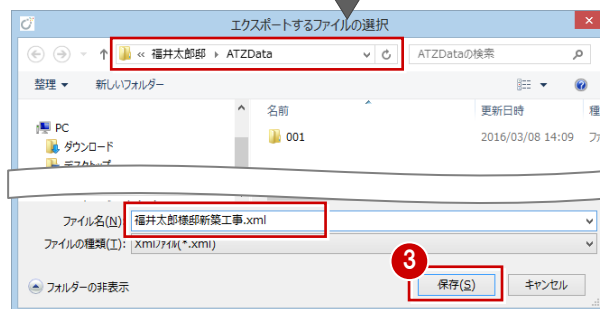
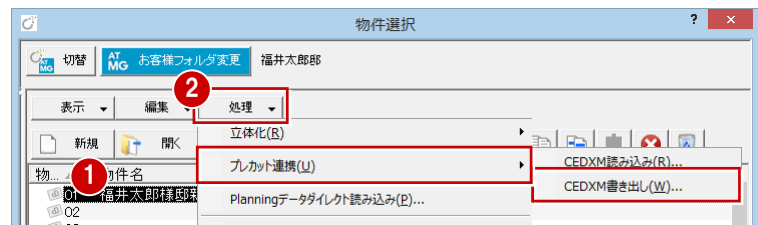
⇒ その他プレカット連携の注意点については P.6 参照

CEDXM ファイルを書き込む

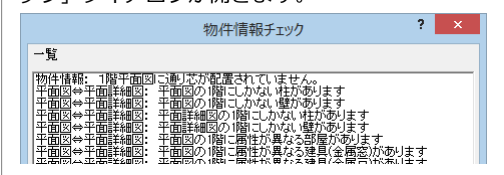
- 1 [物件選択] ダイアログで、出力する物件を選びます。
- 2 [処理▼] メニューから [プレカット連携] の [CEDXM 書き出し] を選びます。
- 3 ファイルの保存先と名称を設定して、[保存] をクリックします。
- 4 [工法] の [タイプ] で工法を選びます。[金物][その他]を選んだときは、[詳細] も設定します。
- 5 [土台せい] に土台のせいを入力します。
- 6 床小屋伏図の構造材を連携する場合は、[平面図の構造材を対象とする] を OFF にします。
- 7 [OK] をクリックします。
処理が開始され、指定した場所に CEDXM ファイルが作成されます。

床小屋伏図からの CEDXM ファイル出力

床小屋伏図の [ファイル] メニューから [他プログラム専用連携] の [プレカットデータ (CEDXM) 書き出し] を選んでも、同様に出力できます。



図面のデータに問題がある場合、[物件情報チェック] ダイアログが開きます。



⇒ 連携するデータについては、ヘルプ「リファレンスガイド」の「プレカット CAD と連携する」の「プレカット連携するデータ」を参照

1-3 プレカットの構造図データを読み込む

プレカット工場から CEDXM ファイルが戻って来たら、床小屋伏図に読み込みましょう。

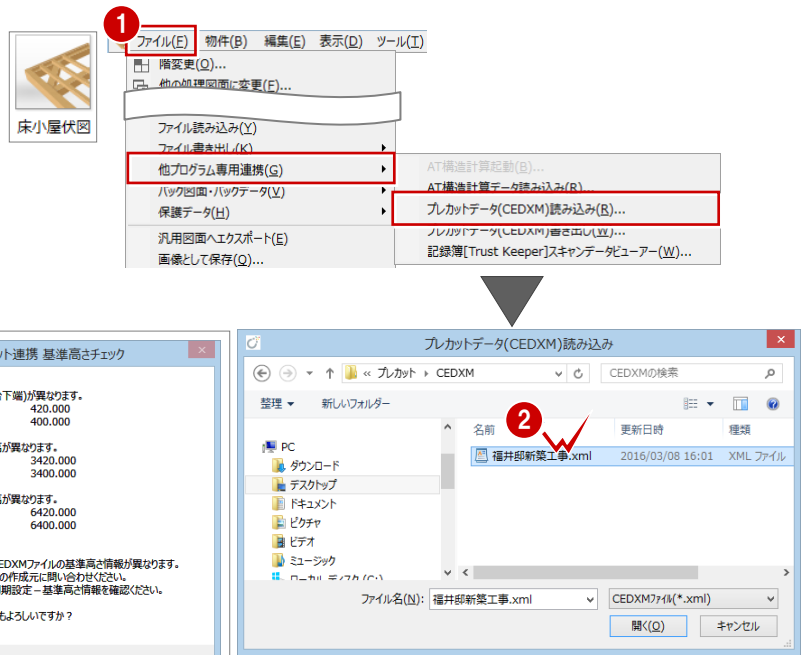
※ 床小屋伏図に入力されているデータは、削除されるので注意してください。

読み込む物件

前回プレカット工場に CEDXM ファイルを渡した物件に読み込みましょう。
CEDXM 読み込みは、CEDXM 出力した物件に読み込むことを想定しているため、新規データに読み込んだ場合、基準高さや読み込み後の追記・編集などに支障が出ます。
⇒ 新規データに読み込む場合は、ヘルプ「リファレンスガイド」の「プレカット CAD と連携する」の「プレカット CAD データを新規物件に取り込むには」を参照

CEDXM ファイルを読み込む

- 1 対象物件の床小屋伏図を開いて、[ファイル]メニューから[他プログラム専用連携]の[プレカットデータ (CEDXM) 読み込み]を選びます。
- 2 読み込むファイルをダブルクリックします。



高さの情報が異なる場合、[プレカット連携 基準高さチェック] ダイアログが開きます。ZERO の物件データを確認して間違いがなければ、CEDXM ファイルの作成元に確認してください。

基準高(土台下端)が異なります。	ATZERO	CEDXM
1階の基準高が異なります。	420.000	400.000
2階の基準高が異なります。	3420.000	3400.000
3階の基準高が異なります。	6420.000	6400.000

現在の物件とCEDXMファイルの基準高さの情報が異なります。CEDXMファイルの作成元に問い合わせください。もしくは、物件初期設定 - 基準高さの情報を確認ください。
処理を中断してもよろしいですか?
はい(Y) いいえ(N)

- 3 [対象部材] で、読み込む部材を選びます。読み込みしない部材は、クリックしてOFFにします。

読み込む対象の部材

連携するデータは、次の通りです。

柱材	管柱, 通し柱, 半柱, 1/4柱, 床柱, ポーチ柱 (角・丸), 小屋束, 床束
横架材	土台, 大引, 火打土台, 梁 (※1), 軒桁, 火打梁, 母屋, 棟木, 隅木, 谷木, 枕梁, 登梁, 頭つなぎ, 小屋梁, 胴差
筋かい	筋かい
補助材	間柱, 窓台, 窓まぐさ, 根太 (※2), 垂木

- ※1: 床の梁は「梁 (床)」, 小屋の梁は「梁 (小屋)」です。
- ※2: 1階の根太は「根太 1」、2階以上の根太は「根太 2」です。

【部位名】には、ZERO にはない部材が CEDXM ファイル内に存在した場合には表示されます。

【樹種】 [等級] [金物]には、CEDXM ファイル内に入っている樹種、等級、金物の一覧が表示されます。

4 [部位名] に「未設定」が表示された場合は、[▼]をクリックしてZERO側の部材を割り当てます。

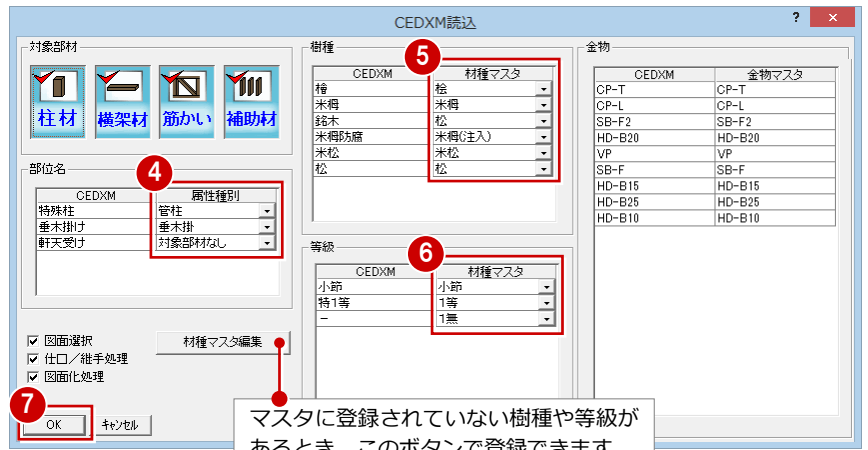
5 6 [樹種] [等級] に「未設定」が表示された場合は、[▼]をクリックしてZERO側の材種マスタの等級と樹種を割り当てます。

※ [金物] に「未設定」が表示された場合は、[金物マスタ]をダブルクリックしてZERO側の金物マスタを割り当てます。

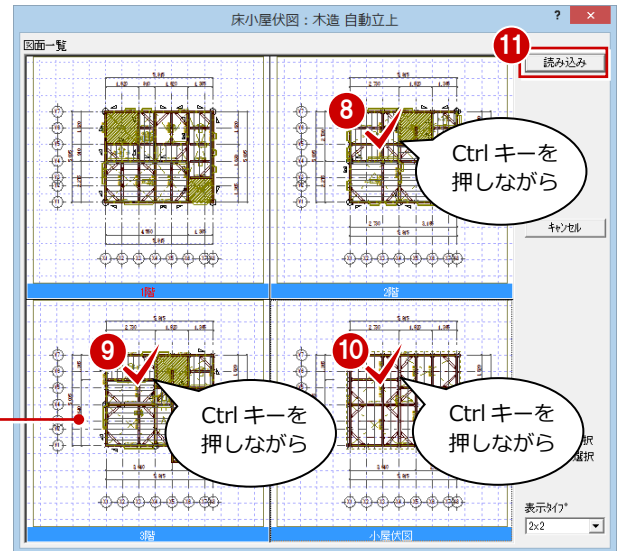
7 設定が完了したら [OK] をクリックします。

8 ~ 10 読み込む図面を選択します。
Ctrl キーを押しながら、図面をクリックします。

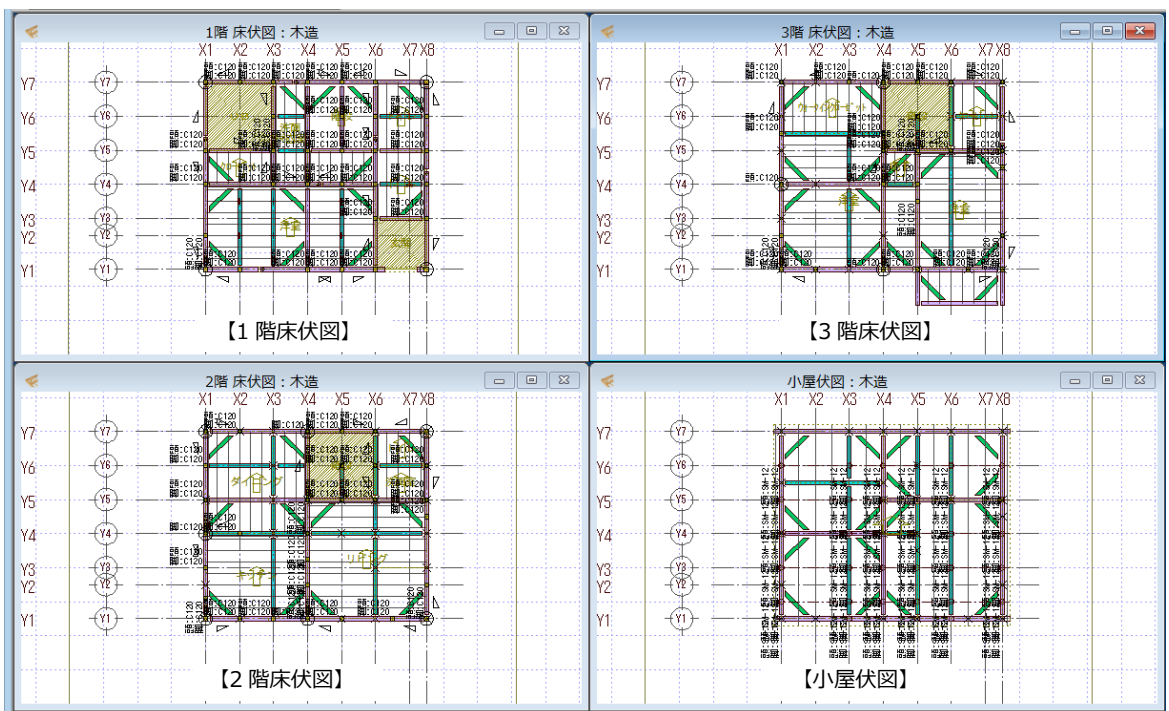
11 [読み込み] をクリックします。
CEDXM ファイルのデータが、選択した図面に読み込まれます。



マスタに登録されていない樹種や等級があるとき、このボタンで登録できます。



入力されている各階床小屋伏図データは削除されます。



2 プレカット連携の注意点

スムーズな連携を行うためにも、連携前に確認をお願いします。

2-1 プレカット工場に渡すファイルの作成

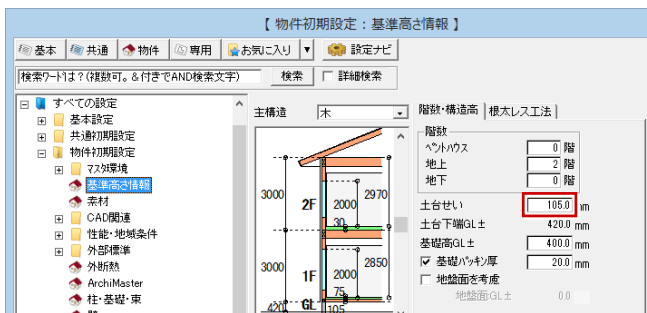
基本情報の確認

a 基準高さ情報を確認する

[物件初期設定 (基準高さ情報)] ダイアログの「土台せい」を確認します。

土台せい

土台のせいは、CEDXM ファイルを作成する際の条件設定で設定します。
プレカットCAD連携に必要な「構造基準レベル」は、土台の上端を基準に算出されます。

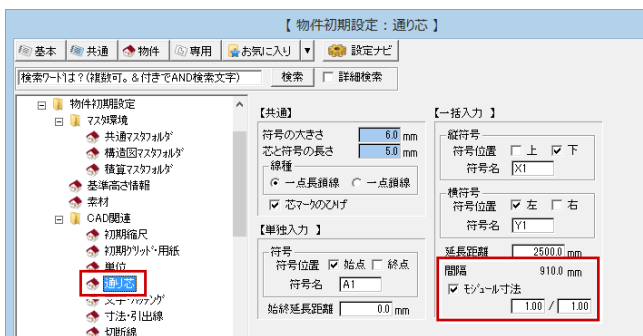


平面図 (平面詳細図) の入力

a 通り芯情報を確認する

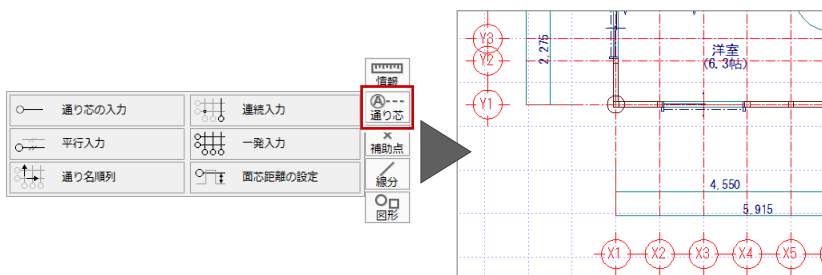
[物件初期設定 (CAD 関連-通り芯)] ダイアログの「間隔」を確認します。

モジュール寸法の間隔は、[物件初期設定 (CAD 関連-初期グリッド・用紙)] ダイアログにある【グリッド設定】の「間隔 X」で設定されています。



b 平面図に通り芯を配置する

プレカットCAD側の基準位置の設定やグリッド情報に利用されるため、平面図に通り芯は必須です。



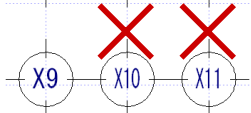
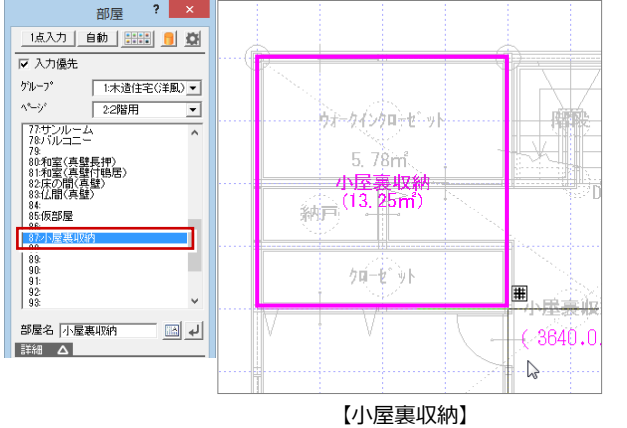
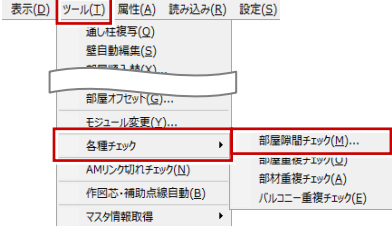
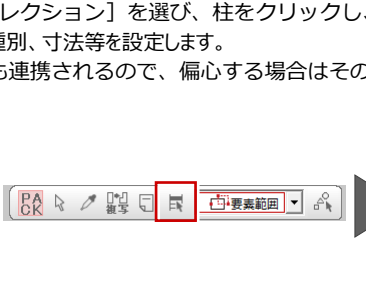

■ MP-CAD の場合

CEDXM ファイルを読み込む際に、読み込み配置・自動配置を選択でき、読み込み後にも手入力できます。

■ TOA-CAD の場合

通り芯データがない場合、ZERO ⇒ TOA-CAD ⇒ ZERO とした際に座標がずれるケースが発生します。

※ TOA-CAD でプレカットデータ (CEDXM) を読み込む際に確認、編集が可能です。

c	通り芯記号は2文字まで (MP-CAD に連携する場合のみ)
<p>MP-CAD 側の制限で、通り芯符号は2文字までしか連携しません (3文字以降は無視されます)。 「X12、Y12」等はNGなので、「い、ろ、は」や「1、2、3」を利用してください。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	
d	小屋裏収納は部屋タイプ「小屋裏収納」で入力する
<p>小屋裏収納を連携したい場合は、部屋タイプ「小屋裏収納」の部屋を入力してください。</p> <p>※ 部屋タイプ「小屋裏収納」は部屋マスタで登録します。 ※ 2階上部に小屋裏収納を配置する場合は[R階平面図]に入力します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="161 434 782 860" style="width: 45%;"> <p>小屋裏収納を連携したい場合は、部屋タイプ「小屋裏収納」の部屋を入力してください。</p> <p>※ 部屋タイプ「小屋裏収納」は部屋マスタで登録します。 ※ 2階上部に小屋裏収納を配置する場合は[R階平面図]に入力します。</p> </div> <div data-bbox="826 434 1455 860" style="width: 50%;">  <p style="text-align: center;">【小屋裏収納】</p> </div> </div>	
e	部屋重複をチェックする
<p>重なって配置された部屋がある場合、その部屋はうまく連携しません。 平面図の「ツール」メニューの「各種チェック」の「部屋重複チェック」で重複がないかを確認します。 重複があった場合は、そのまま領域を優先する部屋を選択し、部屋領域を修正します。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;">【平面図】</p>	
f	柱寸法は実寸法で入力する
<p>平面図に入力した柱の寸法は、そのまま連携ファイルに書き込まれます。 実際に加工を依頼する柱寸法と平面図に入力した柱寸法が異なる場合、連携先のプレカット工場の担当者と打ち合わせしてください。</p> <p>※ 平面図の柱の描画表現を強調するため、運用上実寸法より大きな柱で入力している場合などは注意が必要です (このような入力方法は推奨していません)。</p>	
g	柱の種類、寸法などを設定して反映する
<p>[コマンドコレクション] を選び、柱をクリックし、「柱種別変更」を使って、柱の種類、寸法等を設定します。 偏心の情報も連携されるので、偏心する場合はその方向を指定します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="293 1599 660 1890" style="width: 30%;">  </div> <div data-bbox="676 1599 1455 2027" style="width: 65%;">  </div> </div>	

2 プレカット連携の注意点

h	【平面図 ⇄ 平面詳細図】の整合チェックを行う
<p>連携ファイルは平面図の入力情報から生成されます。平面詳細図で編集している場合は、平面図と平面詳細図の整合チェックを行い、平面図へデータを反映します。</p>	
i	【平面図 ⇄ 木造壁量計算】の整合チェックを行う
<p>連携ファイルは平面図の入力情報から生成されます。木造壁量計算で配置した耐力壁を連携したい場合は、平面図の【読み込み】メニューから【他図面情報読み込み】の【耐力壁（木造壁量計算）読み込み】で取り込んでおきます。</p>	
<p>※ 木造壁量計算に配置された耐力壁の位置は、そのままでは連携データに反映されません。 ※ 木造壁量計算の接合部金物情報は連携します。</p>	

屋根伏図／天井伏図／立面図の入力

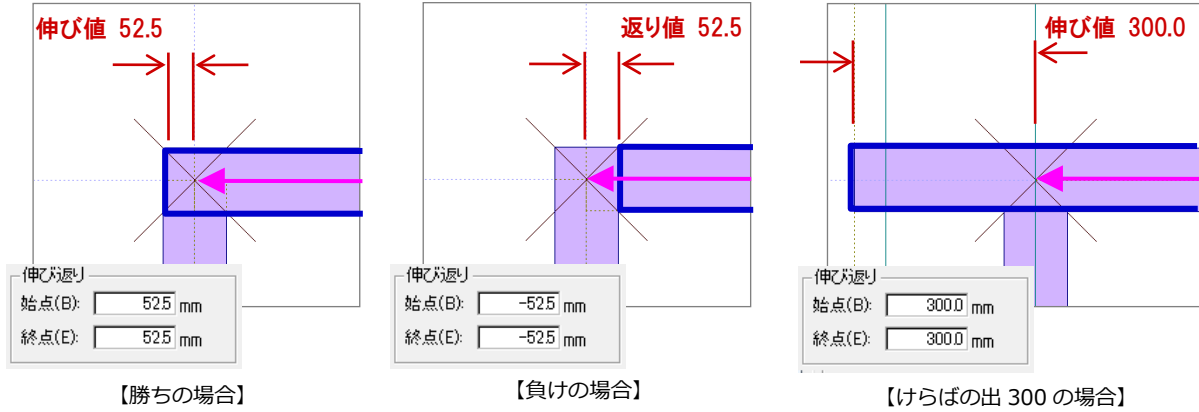
a	屋根領域がどの部分（垂木先端、鼻隠し、葺材）を指しているのかを確認する
<p>屋根領域がどの部分（垂木先端、鼻隠し、葺材）を指しているのか、連携先のプレカット工場の担当者と確認をとっておきます。</p>	
<p>※ ZERO では、軒先の位置を垂木の先端とするか、葺材の先端とするかを、【物件初期設定（屋根）】ダイアログの【軒先】で設定しています。（右図は軒先が垂木先端の場合）</p>	
b	図面データも送る
<p>CEDXM ファイルで部材などの連携は行うことができますが、確認のためにも図面も添付しましょう。平面図、屋根伏図、立面図などが必要です。DWG、DXF、JWW などの電子ファイルにするか、FAX にするか連携先と打ち合わせしてください。</p>	

床小屋伏図／木造構造計算の入力

a すべての横架材は芯座標を指定する（仕口は属性変更で指定）

プレカットCADでは、各部材属性ダイアログ（[詳細] タブ）の「伸び返り」の情報が必要になるため、各部材の芯々考慮を確認します。

小屋梁、軒桁などすべての横架材は芯座標を指定して入力します。
仕口については、部材属性ダイアログ（[詳細] タブ）の「端部形状」で指定します。



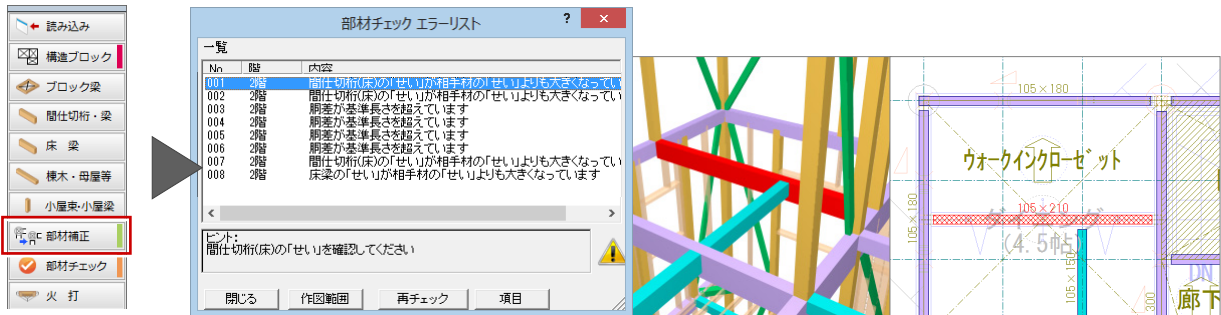
部材補正

伏図アシスタントの「部材補正」の実行により、選択範囲にある部材の伸び返りを自動で設定できます。



b 部材チェックを実行する

伏図アシスタントの「部材チェック」を実行して、構造部材の納まり、寸法などをチェックしておきましょう。



c 金物情報は横架材、柱の属性で指定する

伏図アシスタントの「金物」を実行して、金物マスタの設定と木造壁量計算の計算結果をもとに、部材の金物属性を自動設定しておきましょう。また柱、横架材の属性変更で、個別に指定することもできます。



木造構造計算を行った場合

構造計算で求められた金物は、整合化によって床伏図に反映されます。

2 プレカット連携の注意点

d 構造計算を実施した場合は伏図に反映する

構造材の連携ファイルは床小屋伏図の入力情報から生成されます。
木造構造計算を行って構造材に変更がある場合、床小屋伏図と構造計算の整合チェックを行い、床小屋伏図のデータを更新します。

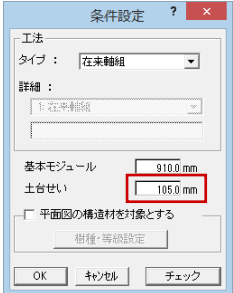



CEDXM ファイルの作成と連携

a エクスポート時の条件設定で土台せいを確認する

エクスポート時の [条件設定] ダイアログで、[土台せい] を確認します。
プレカット CAD 連携に必要な「構造基準レベル」は、土台の上端を基準に算出されます。

なお、[条件設定] ダイアログの [土台せい] の初期値には、1 階床伏図に入力されている土台のせいが連動します。土台が入力されていない場合、木造構造材マスタの [土台] の値が連動します。

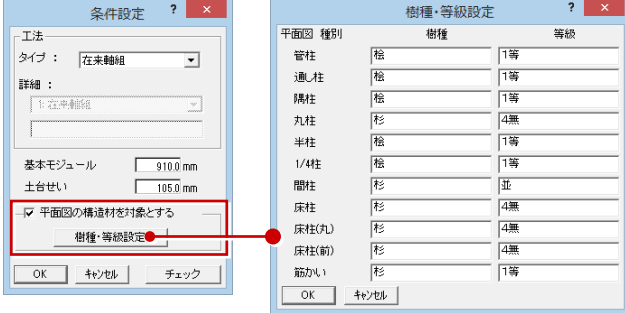


b 平面図の柱・間柱・筋かいを連携させたい場合

[プレカットデータ (CEDXM) 書き出し] の [条件設定] ダイアログで、[平面図の構造材を対象とする] を ON にします。

※ 伏図にデータがない場合は自動的に ON になります。
※ OFF の場合、床小屋伏図に配置された構造材が連携されます。

このとき、各部材の樹種・等級については、[樹種・等級設定] ダイアログで指定できます。



平面図 種別	樹種	等級
管柱	桧	1等
連立柱	桧	1等
隅柱	桧	1等
丸柱	杉	4無
半柱	桧	1等
1/4柱	桧	1等
間柱	杉	並
床柱	杉	4無
床柱(丸)	杉	4無
床柱(前)	杉	4無
筋かい	杉	1等

c 柱の樹種・等級情報が正しく連携しない

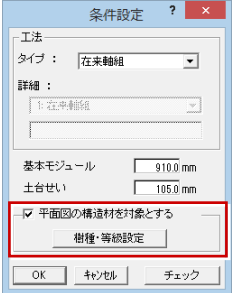
柱の樹種・等級の連携には次の方法があります。

床小屋伏図にデータがない場合
[条件設定] ダイアログで [平面図の構造材を対象とする] が自動的に ON になります。
[樹種・等級設定] ダイアログで設定した部材ごとの樹種・等級情報が連携します。

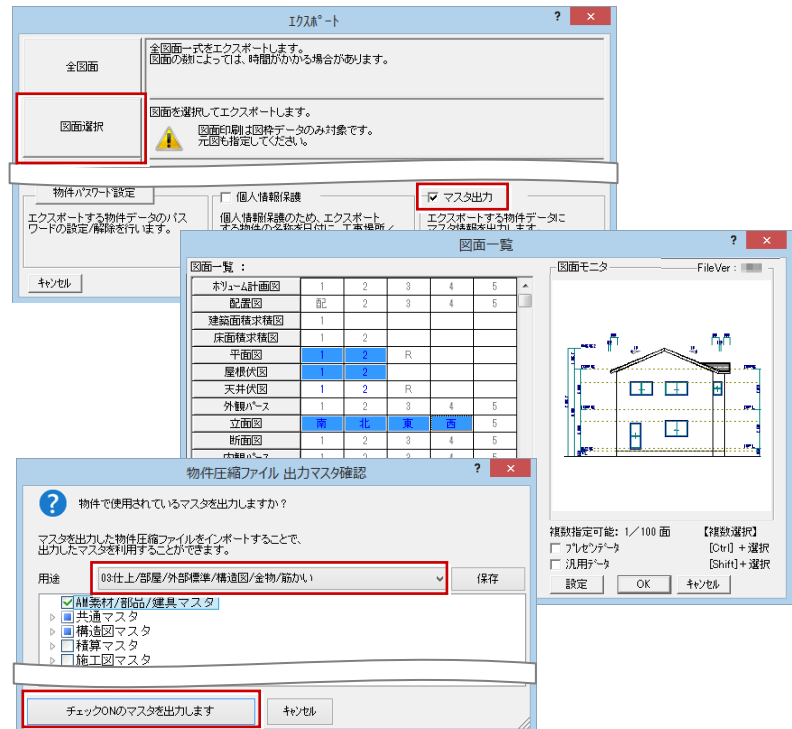
床小屋伏図にデータがある場合
[条件設定] ダイアログで [平面図の構造材を対象とする] を OFF にします。
「床小屋伏図」で設定された部材ごとの樹種・等級情報 ([積算] タブの樹種と等級) が連携します。

■ **MP-CAD の場合**
プレカットデータ (CEDXM) を読み込む際に、次の指定が可能です。
・「連携ファイル内の樹種・等級マスタを割り当てる」
・「MP-CAD が持つ樹種・等級マスタを割り当てる」

■ **TOA-CAD の場合**
読み込み後、「樹種・等級変換テーブル編集」で設定し直すことが可能です。
※ プレカットデータ (CEDXM) を読み込む際に「ファイル連携/初期ファイル連動」を選択できます。



d	<p>たれ腰壁が全壁になってしまう</p> <p>たれ腰壁（キッチンや階段部屋の手摺部分など）は「全壁」として読み込まれます。連携後にプレカットCAD側で修正してください。</p>
e	<p>手摺壁が連携しない</p> <p>■ MP-CAD の場合 「立上り壁」として読み込むことが可能です。</p> <p>■ TOA-CAD の場合 「手摺壁」として読み込むことが可能です。</p>
f	<p>頭つなぎが連携しない</p> <p>■ MP-CAD の場合 「頭つなぎ」は「梁・桁」として読み込むことが可能です。</p> <p>■ TOA-CAD の場合 「頭つなぎ」は「梁・桁」として読み込むことが可能です。</p>
g	<p>金物情報が連携しない</p> <p>■ TOA-CAD の場合 「金物情報の連携」の選択が可能です。</p>
h	<p>エクスポート（fcbz データ作成）時の注意点</p> <p>工務店 ⇒ プレカット工場へ ZERO の図面データをエクスポート（fcbz データ）して渡す場合は、最低、平面図、屋根伏図、立面図が必要です。</p> <p>※ 立面図は高さ関係の確認のため必要となります。</p> <p>※ 平面詳細図がある場合は、あわせて指定します。ただし、プラン情報は平面詳細図だけでは連携できませんので、必ず平面図も指定します。</p> <p>※ 使用しているマスタが異なる場合は、[エクスポート] ダイアログの [マスタ出力] にチェックを付けます。 [物件圧縮ファイル 出力マスタ確認] ダイアログが表示されるので、[用途] で「03 : 仕上/部屋/外部標準/構造図/金物/筋かい」を選択します。</p>
i	<p>DXF 出力時の注意点（MP-CAD に連携する場合のみ）</p> <p>ZERO の図面データを DXF に出力して MP-CAD に渡す場合は、[種類] を「AutoCAD R12 DXF」に設定して書き込んでください。</p> <p>※ デフォルトの設定では、MP-CAD でうまく読み込めない場合があります。</p>



2-2 プレカットの構造図データの読み込み

プレカット工場から CEDXM ファイルが戻ってきたときの ZERO の操作における注意点を紹介します。

床小屋伏図への読み込み

a 連携ファイルを書き出した物件に読み込む

CEDXM 読み込みは、意匠データを書き出した物件データへの取り込みを想定しています。従って、意匠データを書き出した物件データに連携ファイルを読み込んでください。
新規データに読み込んだ場合、基準高さの確認や読み込み後の追記・編集が必要な場合があります。

b 読み込んだ構造材が平面図の間取りと大きくずれてしまう場合

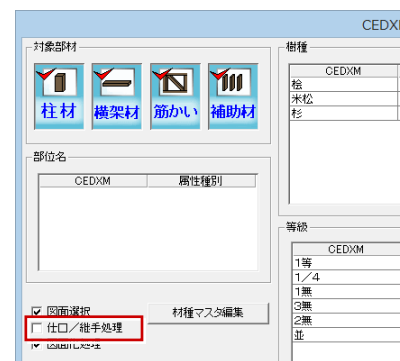
以下のことを確認してください。

- ・ プレカット工場で構造図を作成する際に、プレカット CAD に ZERO で書き出した連携ファイルを読み込まず、全く新しい物件として構造図を作成した可能性があります。
⇒ プレカット工場の担当者にお問合せください。
- ・ プレカット工場が TOA-CAD を使用している場合
ZERO で連携ファイルを書き出した際に、通り芯が入力されていない可能性があります。
⇒ 平面図に通り芯が入力されているかを確認してください。

c 仕口/継手情報を取り込む方法を指定する

プレカット CAD で生成された仕口/継手情報を読み込む場合、[仕口/継手処理] を OFF にします。

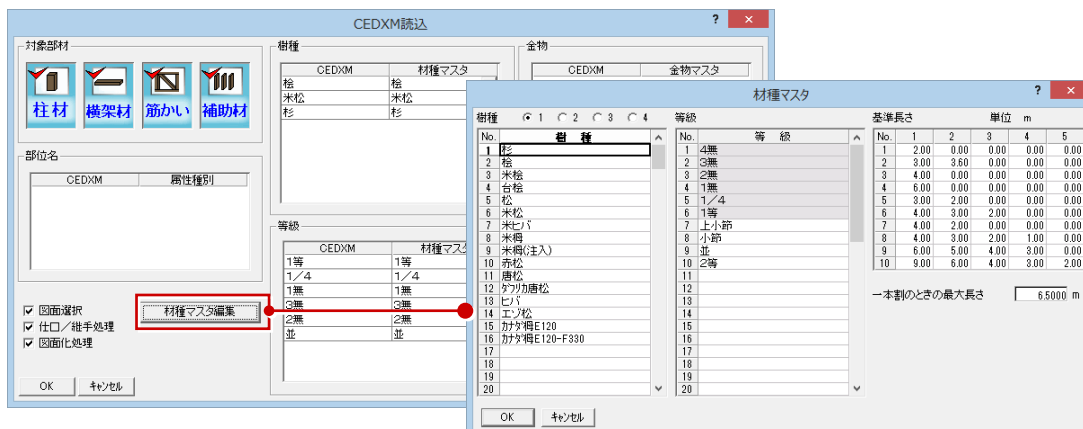
- ・ 横架材端部の持出し量をプレカット CAD で生成した値のまま読み込む場合
⇒ [仕口/継手処理] を OFF にします。
- ・ 横架材端部の持出し量を読み込み時に自動設定したい場合
⇒ [仕口/継手処理] を ON にします。相手材幅の 1/2 が持出し量に設定されます。継手は重なっている中点までの距離が持出し量に設定されます。



d 登録されている樹種・等級では足りない場合

登録されている樹種・等級では足りない場合、[材種マスタ] を開き、必要な樹種を登録します。

その樹種・等級に CEDXM ファイルの樹種・等級を指定すれば、次回より指定した樹種・等級が自動的に割り当てられます。



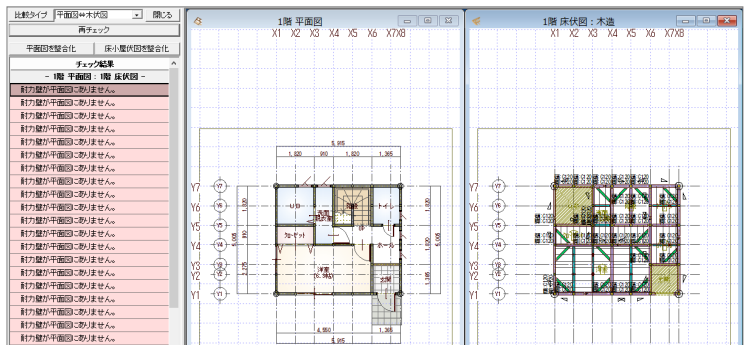
整合性チェック

a [平面図 ⇄ 床小屋伏図] の整合チェックを行う (柱、耐力壁、通り芯等)

読み込んだ床小屋伏図 (プレカット CAD から連携した伏図) と平面図の整合チェックを行います。

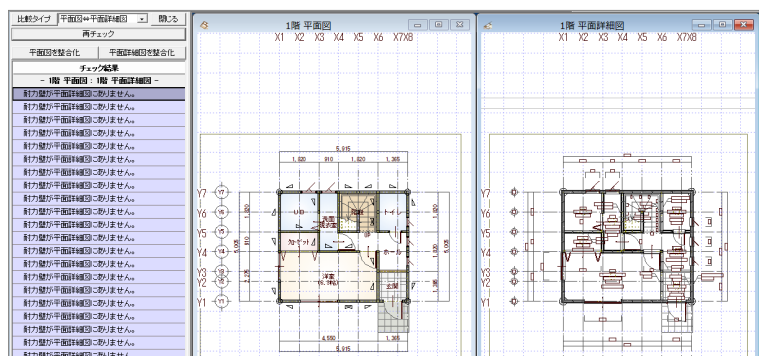


- ・プレカット CAD から伏図に連携した耐力壁の情報を平面図に取り込みます。
- ・連携元の平面図の柱や通り芯のデータに編集が加えられていないかを確認します。



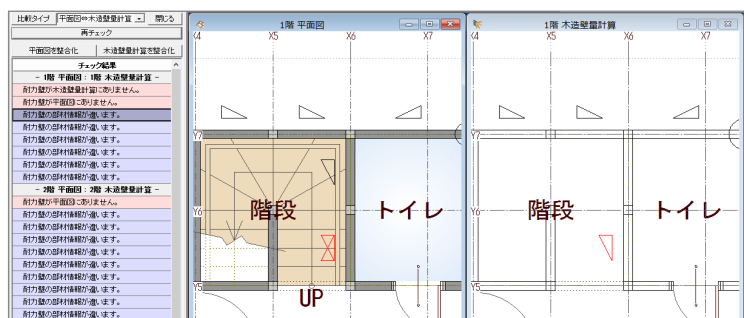
b [平面図 ⇄ 平面詳細図] の整合チェックを行う (柱、耐力壁、通り芯等)

平面図と平面詳細図の整合チェックを行い、平面図に読み込んだ耐力壁を平面詳細図に読み込みます。



c [平面図 ⇄ 木造壁量計算] の整合チェックを行う (柱、耐力壁、通り芯等)

平面図と木造壁量計算の整合チェックを行い、平面図に読み込んだ耐力壁を木造壁量計算に読み込みます。



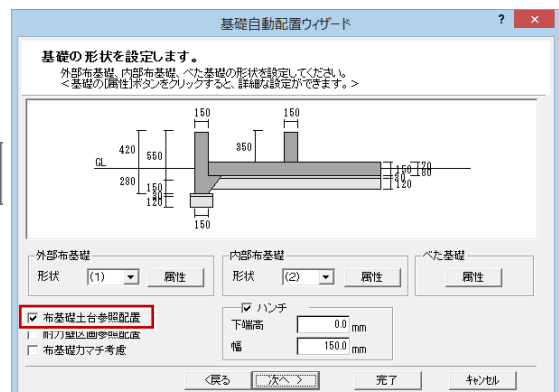
基礎伏図の作成

a 読み込んだ土台を参照して基礎伏図を作成する

基礎自動配置ウィザードで [布基礎土台参照配置] を ON にして基礎を自動作成します。床小屋伏図に土台が入力されている場合、基礎自動配置では入力されている土台に沿って基礎を配置できます。



※ 床伏図に土台がない部分については、基礎の外区線上や床仕上が「モルタル (土間コン)」タイプの場合は立ち上がりの基礎が作成されます。



新規作成データを一棟読み込み

a 連携ファイルを渡さずプレカット CAD 側で新規に作成した連携ファイルを読み込む

ZERO からプレカット CAD へ連携ファイルを渡さず、読み込む物件データがない場合（手描き図面や Jw 図面を FAX 等で送った場合など）、プレカット CAD から書き込みした CEDXM ファイルが意匠（物件情報や間取り・屋根・開口情報）+ 構造の情報をもつものであれば、新規物件として木造床小屋伏図のほかにも平面図、屋根伏図を自動作成できます。

[物件選択] ダイアログの [処理▼] メニューから [プレカット連携] の [CEDXM 読み込み] を実行します。

階	軒高	床厚	階高	窓高	構造
2F	2800.0	90.0	2770.0	2000.0	木
1F	3105.0	75.0	2955.0	2000.0	木

2-3 プレカット工場でのファイル取り込み

ZERO から出力された CEDXM ファイルを、プレカット CAD に読み込んだときや、連携ファイルを作成するときの注意点を紹介します。

a	半柱・間柱の情報を読み込みたくない場合
	加工しない等の理由で半柱・間柱の情報を読み込みたくない場合、プレカット CAD にてプレカットデータ（CEDXM）を読み込む際に読み込みの可否を指定することが可能です。
b	樹種・等級はプレカット CAD が持つマスタで設定したい場合
	<ul style="list-style-type: none"> ■ MP-CAD の場合 プレカットデータ（CEDXM）を読み込む際に、次の指定が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ・「連携ファイル内に指定されている樹種・等級を割り当てる」 ・「MP-CAD が持つ樹種・等級マスタを割り当てる」 ■ TOA-CAD の場合 プレカットデータ（CEDXM）を読み込む際に「ファイル連携/初期化ファイル連動」の選択が可能です。「初期化ファイル連動」を選択してください。
c	垂木、根太の継手を指定する
	取り込んだ連携ファイルのデータには、継手が指定されていない場合が多くあります。垂木、根太に限らず、その他の部材についても適切な継ぎ手を指定してください。
d	基礎レベルは連携ファイルを作成する際に指定する
	連携ファイルを書き出す際に基礎レベルを指定することが可能です。適切な値を指定してください。